

第34号 うつべ人権協ニュース



令和4年3月 発行
内部地区人権教育推進協議会

内部地区人権教育推進協議会は、「人が人として尊ばれ、住んでいてよかった 住んでみたいまち、うつべ」の実現をめざして、平成12年以来活動を続けています。

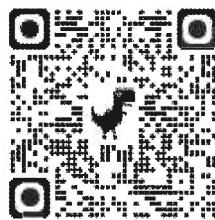
2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から人権講演会、地区懇談会、人権コンサート、人権ひろばを中止にさせていただきましたが、この状況下において内部地区および南部ブロック（内部・日永・河原田・塩浜・楠）で実施された人権に関する事業の内容を皆様にお伝えするために、「人権協ニュース」を発行して各戸にお届けしましたので、是非ご一読ください。

STOP! コロナ差別（四日市市人権センターのホームページより引用）

感染者や医療関係者とその家族、感染者が確認された事業所などに対する誹謗中傷やいじめ、差別的な対応といった人権侵害はあってはなりません。

誰もが感染するリスクがあることを受け止め、お互いを思いやる気持ちを持って行動しましょう。

また、ワクチン接種については、あくまでも任意です。さまざまな事情により接種できない人がいることに配慮し、接種の強制や接種していない人への誹謗中傷などは決して行うことのないようにしましょう。



STOP!
コロナ差別

人権意識を高める啓発ポスターを展示

11月8日（月）から19日（金）までの間、人権啓発ポスターを内部地区市民センター（別館）に展示しました。

例年は、内部地区文化祭時に人権啓発コーナーを併設していましたが、今年も、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から文化祭が中止となったため、市民センターでの展示となりました。内部小学校6年生の皆さんと内部東小学校5年生の皆さんに出展して頂き、その作品のなかには、他面からとらえたものもあり、意識の高まりに驚きました。

これらの作品は、市民センターを訪れた多くの皆さんや別館を利用した各団体の皆さんの目にも留まったことでしょう。

出展して頂いたポスターを掲載します。

人権啓発ポスター

内
部

内
部
東

小
学
校
の
み
な
さ
ん



6-C 松本すず乃



6-B 辻 絢太



6-A 白都龍馬



6-A 伊藤莉里



6-A 坂上大晟



5-1 宮本侑佳



5-3 斎藤凧紗



5-2 村山和花



5-1 南出明日香



5-2 松田凌衣

内部地区子ども人権フォーラム

12月7日(火)、内部地区小中学校の子ども人権フォーラムが開催され、内部地区人権教育推進協議会からも9名の委員が参加しました。以下に、主催者からの実施内容の報告をいただきました。

12月7日(火)、内部地区の小中学校それぞれを会場として子ども人権フォーラムを開催いたしました。本年度も昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ZOOM を活用したオンライン形式で、「みんなが安心してらせるまち」をテーマに、小中ペアクラスで交流会を行いました。

まず、街の様子絵から良いところや気になるところを出し合いました。児童・生徒からは、「人権相談ができるところがあるのが良い。」「結婚式で『仏滅なのに。』と言っているのが気になる。」などたくさんの意見が出ました。その後、点字ブロック上の自転車・様々な言語で書かれた緊急案内図・バスの車中の高齢者や妊婦の様子3場面を絞り、どうしてこのような場面になったのか考え、意見を交流しました。話し合いが深まる中で、目の不自由な人への気遣いや点字ブロックの役割など「知ることの大切さ」、自分だけでなく他の人のことも考える・みんなで助け合うなど「認め合う・支え合う・共生することの大切さ」、周りの様子を気にして勇気を出して声をかけるなど「行動することの大切さ」といったわたしたちがこれから大切にしていきたいことに気づくことができました。



実際に対面しての開催ではありませんでしたが、参加した児童・生徒からは、「小学生(中学生)のいろんな視点で話が聞けてよかった。」との感想がたくさんありました。この人権フォーラムで交わされた意見や自分自身で振り返ったことをしっかり受け止め、今後自分の地域もみんなの力で良くしていこうという気持ちを高め持続していくことを期待しています。

南部ブロック「人権ひろば」 人権講演会「やさしさをカタチに」

2月13日(日)、内部東小学校において南部ブロック(内部担当)主催で「人権ひろば」を開催することを計画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止としました。

この人権ひろばで、三重県熊野市出身で三重県生涯学習センターの所長をされており、また手作りの歌と話をとおした人権ライブキャラバンを全国各地で開催し、音楽工房「夢のかぼちゃ」という、音楽グループの店主である長島りょうがんさんに「やさしさをカタチに」と題した講演を予定していましたが、中止となったため、講演内容を寄稿していただきました。

「やさしさをカタチに・・・」

朝、近鉄電車にのってる時でした。

けっこう混んでいて、ウィルスを気にしながらも、こんなときは、仕方がない・・・そう思っていた時でした。

江戸橋の手前で学生が、立っていた年配の女性に、「すぐに降りますので、この席にどうぞ！」と笑顔で席を譲りました。

電車は江戸橋駅に。

ホームに出た学生は、別の車両の遠くの扉から、気づかれないように同じ列車の車内へ駆け込みました。女性に気を使わせまいとした、小さな、優しい学生の「うそ」でした。

誰もが、心がおれそうで、まわりが信用できないような社会になりつつある今、ウィルスと戦っている今、そんな時に、心がじわーっとやさしさに包まれた、そんな瞬間でした。

今こそ、誰にも持っている優しい想いをカタチにする時なのではないだろうか・・・

人権・・・ だれもが、幸せになるために生まれてきて、しあわせになるために生きていること。

ささやかではあるけど、幸せになるための種をそっと自分のできることから、まいてみるそんな時ではないだろうか・・・そうおもうのです。

『心』は誰にも見えないけれど、『こころづかい』は見える。

『思い』は見えないけれど、『思いやり』は誰にでも見える。

その気持ちをカタチに・・・

宮澤章二 「行為の意味・青春期のきみたちに」より

このCMは、電車で妊婦に席をゆずれなかった男子高校生が、想いをカタチにしようと石段を上る高齢女性の背中にそっと手を添える・・・

そんなCMでした。

そのバックに、宮澤さんの詩「行為の意味」が朗読されました。

東日本大震災で日本中が悲しみのなかでいた時のコマーシャル・・・

どれだけの人が、このCMで、心をうたれ、やさしさとだれかのために行動することの大切さを知ったことだろう・・・

今、世界がとてつもない大きな闇に飲み込まれそうになっている。

だからこそ、今、僕たちは「行為の意味」を考えたい、そう思うのです。

今、自分たちにできること・・・ それをカタチに・・・

それが、一人ひとりできたら、明るい世界がまた輝き出すと思うのです・・・

幸せは歩いてこない、だから歩いていくんだよ♪こんな歌があった。

幸せは、待っていたら、こない・・・

想いをカタチに・・・

万謝 長島りょうがん

【四日市市 人権センターより】

インターネット時代における、 メディア・リテラシー養成を通じた 人権教育の推進をしています



★メディア・リテラシーとは

インターネットやメディアが発信する情報をそのまま受け取るのではなく、自らの判断で主体的に読み解き、活用する力のことです。インターネットから発信される情報に、社会的な偏見が含まれていることもあります。「メディア・リテラシー」は、インターネット等で発信される情報はもちろんのこと、日常会話から得る情報についても必要です。

Q. どうやって学んだらいいですか？

A. 楽しく学べる DVD を貸出しています！

『コントで学ぶ メディアと社会とわたし』

『フェイクで作られる世界②』

DVD 内容紹介ページ



人権啓発
貸出

【お問い合わせ】 四日市市 人権センター

電話 059-354-8609 FAX 059-354-8611

E-mail jinkencenter@city.yokkaichi.mie.jp